

# 美術☆夏休みの課題「美術館へ行こう！」

美術館や美術展に出かけ芸術を鑑賞し、印象に残った作品の感想をまとめて、9月3日(月)に提出。

※9月3日はクラスごとにまとめて美術準備室前のBOXに提出してください。

★鹿児島市立美術館「ミュシャ展～運命の女たち～」→→入場受付で学校名を伝えると入場料が200円で鑑賞できます。通常、中学生の入場料は600円です。

※上記以外の美術館・美術展でもかまいません。

☆学芸員によるギャラリートーク：7/28,8/11,8/25(土) 14:00～15:00

☆記念ワークショップ 8月5日(日) 10:00～16:00「はじめてのリトグラフ」

☆夏休みワークショップ8月19日(日) 10:00～11:30または13:30～15:00

「(仮) 花の妖精のすみかをつくろう!～ミュシャ風塗り絵とオブジェ～」

※各ワークショップは、事前の申込み及び材料費が必要です。興味と日程があったら参加してみましょう。

詳しくは美術館ホームページで確認してください。

氏名	/年	組	番	行った日	8月 5日(日)
				美術館・美術展名	ミュシャ展～運命の女たち～

作品名	ジスモンダ	作者名	ミュシャ
感じたこと			
この絵の上部は喜びや幸せを下部は心にかくれている悲しみや苦しみを表現していると思った。なぜなら黄金のスカートを着ていて、花のようなみかざりをつけている女性は華やかで幸せそうだからだ。一方その下にはゾンビのような人間がいる。この絵は入を表現していると感じた。			

作品名	横向きの少女の肖像画	作者名	ミュシャ
感じたこと			
肌やかみ質感、服などのそれぞれを鉛筆1本で表現していた。白色ハイライトをプラスすることで、遠くから見ても作品が暗く感じず、遠近法を活用していないのに写真を見ているように感じた。犬ざらほのようで細かかった。			

作品名	《スラウ叙事詩》展	作者名	ミュシャ
感じたこと			
この絵でまず最初に目に入ったのは6つの人間の顔だ。それぞれが感情を持っているように思える。色彩遠近法を活用している。これによって絵全体の雰囲気も暗すぎず、はげすぎず、ほどよいバランスの作品となっている。			

※鑑賞レポートは、2学期の評価材料となります。